

「明治150年」の取り組みについて

平成30年は、明治改元から起算して満150年に当たります。近代化を成し遂げた明治の歩みを次世代に遺すとともに、明治の精神に学び、さらに飛躍する国を目指すため、全国でさまざまな取り組みが行われています。

松山出身の秋山好古・真之兄弟と正岡子規の3人が主人公となった、司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』では、明治という激動の時代に、懸命に国づくりをした人々の姿が描かれています。松山市はこれまで、小説に描き込まれたメッセージを基本理念に、地域固有の資源を活用した個性あるまちづくりを進めてきました。今年は小説の主人公の一人、秋山真之の生誕150年の節目の年にも当たることから、明治の先人たちの足跡や精神を改めて見つめ直し、「『坂の上の雲』のまち 松山」ならではの特色を生かした事業を行います。

キャッチフレーズ

松山市では「『坂の上の雲』のまち 松山から未来を拓く」を独自のキャッチフレーズに決めました。

明治150年を契機に、改めて松山の魅力を振り返り、ふるさとへの愛着や誇りを高めるとともに、前のみを見つめ、坂の上の青い天に輝く一朵の白い雲を目指した主人公たちのように、市民が夢や希望を抱き、挑戦しつづけるまちづくりにつなげていきます。



国制定ロゴマーク

施策①ふるさとへの愛着や誇りを高める

秋山好古・真之兄弟や正岡子規など新時代を切り拓いた多くの先人たちの功績や、彼らを育んだ松山の風土、明治の人々が遺した文化・歴史に触れていただき、松山市民のふるさとへの愛着や誇りを高めます。

施策②まちづくりの機運醸成を図る

古くから伝わる歴史や文化を継承するとともに、明治という時代に現実を見据えて夢や目標に向かって明るくひたむきに生きた先人たちの精神を取り入れ、夢や希望を持ったまちづくりの機運を醸成します。

施策③松山の魅力を高め、発信する

俳句に代表される松山固有の文化や歴史などの地域資源が持つ魅力を高めるとともに、「『坂の上の雲』のまち松山」を広く発信し、交流人口の拡大につなげます。